チリ定期報告（内政・外交概況　2013年12 月）

**１．概要**

（１）内政面では，１２月１５日に大統領選挙決選投票が実施され，バチェレ候補（野党会派）が６２.１６％の得票率でマテイ候補（与党会派，得票率３７．８３％）を破り，次期大統領就任を決めた（開票率９９．９３％時点の数値）。

（２）外交面では，対ペルー領海境界線確定裁判の判決日程が２０１４年１月２７日となる旨が発表された。

（３）１月７日発表のAdimark GfK社調査による１２月のピニェラ大統領の支持率は４５％，不支持率は４１％となった。

**２．内政**

**２０１３年大統領選挙**

（１）　バチェレ候補及びマテイ候補によるディベートの実施

大統領選挙決選投票に向け，バチェレ候補（野党会派）及びマテイ候補（与党会派）によるラジオディベート（６日）ならびにテレビディベート（１０日）が実施された。ディベートにおいては，教育制度改革，税制改革，エネルギー政策等に関する討論が行われ，テレビディベートの平均視聴率は４３．５％であった。

（２）　大統領選挙決選投票の実施

ア　選挙概要

１２月１５日，大統領選挙決選投票が実施され，「バ」候補（野党会派）が６２．１６％の得票率でマテイ候補（与党会派，得票率３７．８３％）を破り，次期大統領就任を決めた。「バ」候補の得票率は，１９８９年以降の大統領選挙決戦投票においては最高となる。なお，今次選挙における有権者の投票率は，第１回目投票（１１月１７日）での投票率（約４９％）をさらに下回る４２％にとどまり，過去最低の投票率となった。「バ」候補は，第１回目投票の得票数を約３９万７千票上回る約３４６万８千票を得たものの，右数値は民政移管以降の大統領決戦投票に勝利した候補としては最も少ない得票率であった。なお「バ」候補は，１５日夜に行われた勝利宣言の中で「（有権者の）チリの政治制度や組織に対する不信感を取り除かなければならない」と述べ，今後，教育制度改革，憲法改正，税制改革及び年金制度改革等をはじめとした諸改革に責任をもって取り組んでいく意向を示した。次期閣僚については１月末までに決定する旨を表明。

イ　マテイ候補の敗北宣言

「マ」候補は３７．８３％の票を得たが，１９時すぎには開票速報の結果を以て潔く敗北を受け入れ敗北宣言を行い，２０時１５分すぎには，「バ」候補陣営が待機する市内ホテルに赴いて直接祝意を表明した。なお，「マ」候補は次期政権におけるバチェレ次期大統領の成功を祈ると述べたが，その後，「最も重要なことは，憲法議会創設，教育無償化，税制改革等の政策ではなく，一人一人が幸福であることである」と発言し，「バ」候補が提言する右政策を間接的に批判した。なお，ピニェラ大統領は同日１９時３０分過ぎ，「バ」候補に架電を以て祝意を表明した。

**３．外交**

**（１）対ペルー領海境界線画定裁判**

ア　判決日程の発表

１３日，国際司法裁判所（ＩＣＪ）はチリ・ペルー領海境界線画定裁判に関し，判決日程は１月２７日になると発表した。同判決は当事国に対して拘束力を有し，上訴不可能なものとなる。今次発表を受け，「ピ」大統領は「我々はチリの立場を守るため，できることは全て行ってきている。事実と権利に基づく主張を全て行ってきているが，判決を下すのはＩＣＪであるため，ＩＣＪの判決を平穏のうちに待ち望む」と述べた。

イ　モレノ外相と歴代外相による会合の実施

２０日，「モ」外相は，外務大臣を務めた経験がある７名と共に会合を実施し，ＩＣＪ判決に向けての対応等に関し意見交換を行った。「モ」外相は，「今後，我々は団結して外交問題に取り組んでいく。右は，政治的立場や政権の違いによらず，全てのチリ国民に関わる問題である」と発言した。

**（２）太平洋同盟**

ア　起業及びのイノベーション促進のための会合開催

４－６日，サンティアゴにおいて，太平洋同盟加盟４ヶ国が共同で起業及びイノベーション振興のための計画を策定することを目的とした会合「LAB4+」が開催され，ピニェラ大統領，モレノ外相及びデ・ビセンテ経済相らが出席した。６日には，LAB4+の枠組みにおいて，投資促進等を目的とした協定について規定した一連の協定への署名がなされた。

イ　モレノ外相による太平洋同盟セミナー出席

１０日，「モ」外相はロンドンを訪問し，同地で開催された太平洋同盟に関するセミナーに出席した。右セミナーには，他加盟国の企業家及び政府関係者らも参加した。「モ」外相は，「いくつもの都市で（太平洋同盟に関する）セミナーに参加して感じたことであるが，投資家たちは同同盟に非常に熱心な視線を注いでいる。２０１２年は，同様のセミナーを４回にわたり実施し，盛況であったが，２０１３年には当初の予定を大きく上回る３０回のセミナーを開催することができた」と述べた。なお，今次の英国訪問に際し，「モ」外相はヘーグ英外相との会談を実施した。

**（３）モレノ外相のイタリア訪問**

１２日，モレノ外相はイタリア・ローマを公式訪問し，レッタ伊首相及びボニーノ外相と会談した。また，イタリアとラ米地域の関係強化を目的として２年ごとに開催されている「第６回イタリア－ラ米及びカリブ会議」に出席し，２０１３年初頭にチリが主催した第１回ＣＥＬＡＣ－ＥＵ首脳会議の成果について述べたほか，イタリアもオブザーバー国として参加している太平洋同盟について言及した。また，その後ミラノへ移動し，２０１５年ミラノ万博においてチリが出展する会場の視察を行った。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（了）